

協議会ニュース 125号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2009. 8



ガクアジサイ…山田絹子（知多支部）

「あいちの自然観察会」報告

奥三河支部	小山舜二P2
知多支部	吉房瞳P3
名古屋支部	滝田久彦P4
西三河支部	松山太P5
研修会報告	内海勇夫P6
支部だより		
夏休みだよ！NHK こどもエクスカー	渡辺敦P7
会員のページ		
COP10と市民NGOの動き	石原洋一P8
東三河の野生哺乳類	神戸敦P10
事務局だより	P11
編集部	P12

2009 年度あいちの自然観察会

奥三河支部 「茶臼山高原の植生」

奥三河支部 小山舜二

日 時：5月9日(土) 10:00～15:00

場 所：茶臼山高原一帯 (北設楽郡豊根村)

テーマ：茶臼山高原の植生

参加者： 一般15名(名古屋市7名、豊田市2名、豊川市1名、岩倉市1名、可児市2名、瑞浪市1名、恵那市1名) 指導員9名 合計24名

充実した観察会を催すため指導員8名は1週間前の5月2日、下見を行い、チェックポイントなど、コース概要を基に各指導員の分野別の説明場所などを綿密に企画した。

当日の気温は22℃、時期的にやや暑さを感じるものの高原特有な爽やかさを感じる。

コースは西側登山ルートを①自由の広場：会員持参の段ボールからイノシシの頭骸骨、リュックからはニホンジカの角などが飛び出し、奥三河ならではの生の観察会と参加者に喜ばれた。②森の広場：空池周辺でミズナラや東三河では茶臼山のみヤマエンゴグサの観察。③ブナ群落：きつい階段周辺のブナ群落の観察。④展望台(1,415m)：空気も澄み渡り茶臼岳～仙丈岳までが遠望でき、最高のロケーションに参加者全員が感動。そして昼食。⑤雷岩：コースで一番きつい雷岩周辺の下り坂も無事通過。⑥見晴台：ニホンジカの寝家の観察や野生動物の習性などの説明に参加者は興味津々。⑦集合場所に無事帰還。

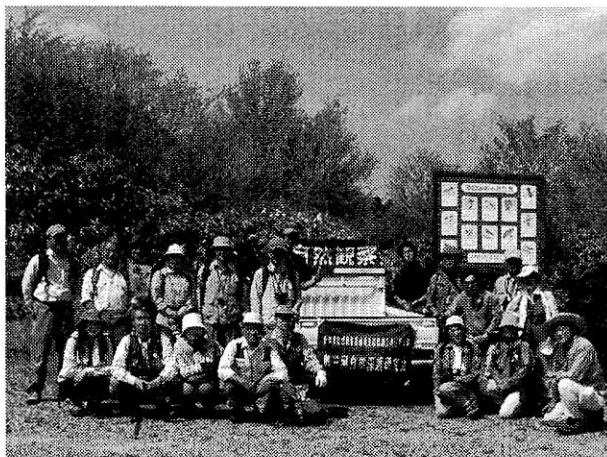
参加者、指導員の感想及び反省会

参加者の感想

- ・ 南アルプスも見え、樹木の芽吹きが新鮮でリフレッシュできた。
- ・ 和やかな雰囲気、生活に密着した指導員の解説に自然の仕組みが興味深く理解できた。(メグスリの木 シイタケのほだ木、カマツカなど)
- ・ 自然が豊かで、見るもの触るもの全部が題材になり、奥三河の魅力を改めて痛感した。会員になりたい。
- ・ 総勢24名のこじんまりした観察会で、指導員はじめ参加者の皆さんの豊富な知識を聞き漏らすことなく吸収出来た事は大きな収穫であった。

指導員の反省

- ・ 奥三河のカラーが出た観察会であった。
- ・ 下見の効果があり、うまく進行できた。
- ・ もっと深い話をしたかった。勉強する。等々



知多支部 「海辺の生き物の観察」

知多支部 吉房 瞳

日時：平成21年6月7日(日曜日)

9:30~11:30

天気：晴れ

場所：富具崎海岸(愛知県知多郡美浜町)

参加者：一般42名、指導員9名、合計56名



6月7日(日)美浜町富具崎海岸において、海辺の生き物の観察会を行いました。好天に恵まれ、42名の親子連れの参加者がありました。講師は森田博文さんと永田孝さん。関係者の参加は、美浜町役場の方、知多自然観察会から他に9名、他支部の指導員の方は3名でした。

初めに、講師の紹介と自然観察会の会員の紹介があり、続いて森田博文さんより、富具崎海岸で触ってはいけない、6つの生き物の紹介がありました。

『①アカエイ(尾のトゲ) ②ゴンズイ(背びれ、胸びれ) ③アイゴ(体) ④ハオコゼ(体、海金魚とも言う) ⑤アカクラゲ(体) ⑥イシガニ(ハサミの力が強く、骨以外は切られるので、背中から以外は触らない)』

これらについての注意点は、写真を見せての説明です。写真は参加者に分かる大きさで、森田さんは危険な箇所を指さしながら、長年の経験談を語り、子供たちも大人も身を乗り出して聞いていました。例えば、イシガニのハサミに挟まれると、肉は全部切られてしまい、血がたくさん吹き出して、骨まで達するという話は、何度も経験した者にしか語れません。蟹を捕まえる時はハサミの背後から持てば大丈夫だという説明に、持ち方をまねしている子供や親子が何人もいました。安全に捕まえる方法となぜそのようにするのかを説明することが大切だと痛感しました。この方法は、他の観察会においても、是非取り入れたいものです。お陰で、全員が注意を守り、楽しく伸び伸びと、採集に励むことが出来ました。

潮時間が良くて、タイドプールには蟹や魚が沢山いました。参加者は、海草、貝、魚等多くの発見があり、大人は海草や貝に興味湧き、子供たちはもっぱら、魚に夢中でした。門脇さん親子が、用意してきた氷を水槽に入れて水族館を設定して下さいました。皆が採集した生き物を持ち寄り、水槽に入れては新たな発見を楽しんでいたようです。

【観察した生き物】

アマモ、ミル、マフノリ、アラメ、キョウノヒモ、オゴノリ、アナアオサ、アメフラシ、タマキビ、フジツボ、カキ、マツバガイ、ヒザラガイ、ヤドカリ、イガイ、カラマツガイ、ウチムラサキ(オオアサリ)、タカラガイ、ハマグリ、アコヤガイ、アサリ、アワビ、ゴンズイ、クジメ、タイラギ、ナベカ、ウミタナゴ、キヌカジカ、ギンポ、メバル、アナハゼ、メジナ、カレイ、ヒライソガニ、タカノケイソガニ、イシガニ、ヨコバサミ、ホヤ、マナマコ、モエギイソギンチャク、ヨロイイソギンチャク、クロイソカイメン、ダイダイイソカイメン、ウニ、クモヒトデ、ヨコエビ、ワレカラ



大きなゴンズイ

名古屋支部

「樹木博士になろう！！」

名古屋支部 滝田久憲

日時 平成21年6月14日(日) 午前10時～12時

天候 晴

場所 名古屋市昭和区鶴舞1丁目鶴舞公園

参加者 一般 18名

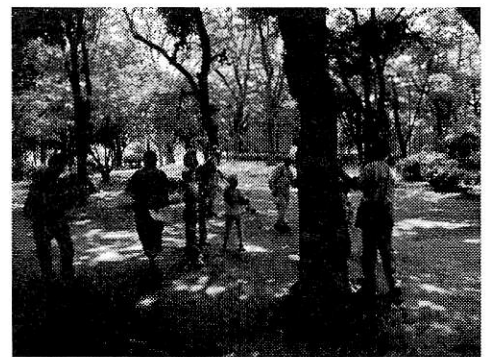
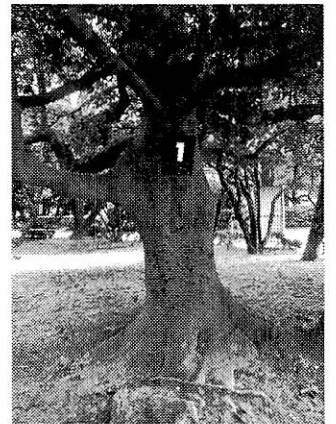
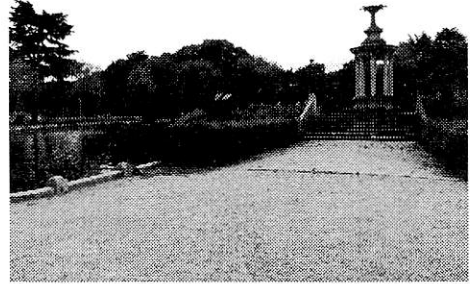
指導 当支部会員 8名 他支部会員 3名

名古屋支部では2009年度のあいちの自然観察会を名古屋市昭和区の鶴舞公園で実施しました。会場となった鶴舞公園は名古屋市が設置した最初の公園で、今年開園100周年を迎えました。この間、市内各地に公園や街路樹が整備され、緑被面積の拡大と緑のネットワーク化が進んでおり、鶴舞公園はこうした都市緑化の草分け的な存在となっています。今回の自然観察会はこの鶴舞公園100周年を記念した協賛事業として企画されました。

もし私たちの身の回りにある公園などから樹木などの緑がなくなったらいったいどうなるのでしょうか。もちろん生態学的に繋がった動物がいなくなるばかりでなく、現代人が都市公園に求めている清涼感や癒しの効果などが得られなくなります。また、クールアイランドとしての役割も果たせなくなります。

そこで、今回の自然観察会では、鶴舞公園に常設されているグリーンアドベンチャーコースにある50種類の樹木の中から、No.1のクロガネモチを始めとした16種類の身近な樹木を選び、参加者の皆さんにこれらの樹木に親しんでもらい、当支部会員による説明や配布していた資料などを参考にして、樹木名を予想してもらいました。資料としては、愛知県建設部河川課発行の「水辺の緑の回廊 樹木図鑑」と当支部で作成した補足図鑑を用いました。そして14種類以上の樹木名が正答の場合に、樹木博士の称号を与える事としました。3班に分けて、全コースを約2時間で回り、樹木名を解答用紙に書いてもらいました。最後に答えあわせをしたところ、ほとんどの参加者が樹木博士になることが出来ました。

今回の観察会では樹木に親しみながら、生態系を下支える植物、とりわけ樹木の役割やその多様などを参加者の皆さんと考えました。名古屋市では来年、生物多様性に関するCOP10が開催されます。今回の取り組みで、わざわざ遠くの自然豊かな場所に出かけなくても、身近な自然の中でも生物多様性の意味やその大切さなどを学ぶことができることが分かりました。



西三河支部 「植物、ハッチョウトンボの観察」

西三河支部 松山 太

日時 平成21年7月11日(土) 9:00~12:00

天候 晴

場所 岡崎市北山湿地

参加者 23名 (一般10名、他支部2名、西三河支部11名)

北山湿地は、岡崎 I.C から南東へ約8キロ、標高200m 弱のなだらかな谷間に、小流が停滞してできた大小10 数個の湿地群です。平成12年から岡崎市が本格的に整備をはじめ、地元の湿地保護の会のご努力で良好な湿地環境と立派な木道が維持されており、季節を通じ実に多くの動植物を手軽に間近で楽しむことができます。

今回特別に市から提供頂いた全30頁の立派な冊子を見ると、湿地固有の東海丘陵要素植物や絶滅危惧種が多く生息し、ここの自然が非常に豊かである事がわかります。

保護の会の方の案内で歩きだすとすぐに、褐色のまだら模様の鳥が目の前に止まり、じっくり見るとオオルリの幼鳥です。コース入り口の意見箱で営巣し4日前に4羽巣立ったとの事。それにしてもこんなに目立つ所でよく無事にヒナがかえったものだといつくり。保護の会でロープを張り、内緒に大事に見守っていただいたおかげです。

大きなツクバネガシの根元に難解なナンカイイワカガミの群落があり、4月の中旬には白い花を沢山咲かせていたそうです。水路沿いにはミゾソバが群生していますが、ここのはコミゾソバと呼ばれる最近発表された新種で、タイプローカリティとの事。違いは、葉が小さいとか花が白いとか、やはり難解です。

バイカツツジは、梅雨の花、ひっそりと葉陰に咲いていますが、のぞきこむと白い花弁に赤い斑点がきれい。上面がうっすらピンクのニオイコベニタケは、かぶと虫の臭いがするからと言われて嗅ぐと本当に感動。

池のほとりでは花穂が垂れないヌマトラノオが咲き始め、イシガメの横を、コシアキトンボが飛び回っています。目の前を横切った大きなトンボは、ウチワヤンマと判明。腹部の先が大きくふくらみ、うちわのようになっているのが

ポイント。オオヤマトンボの大きなヤゴもみつかり、共にここでは初記録だつて。

水路では早い流れに逆らってシマアメンボが浮かび、上から流れてくるものに瞬時に食いつく様子がとても面白く、双眼鏡で見ると背中の子の顔のような縞模様がとてもきれいです。遊歩道沿いには、イノシシのヌタ場や、シカがリョウブの樹皮を食べた痕があちこちにあり、動物の気配も充分に感じとれます。

メインのA湿地は、一周約100m位はありそうなかなか広い開けた所で、今日のお目当てのハッチョウトンボが沢山います。はなれた位置からスコープで見ると翅と腹を下げたりリラックスした姿勢が見られるとの事。人が近くにいると明らかに警戒して緊張した姿勢になっているようで、その違いに確かに納得。

植物ではミカヅキグサ、紫のホザキノミミカキグサ、白いモウセンゴケ、ピンクのトウカイコモウセンゴケ等々多くの花が咲き始め、中央にクロミノニシゴリが数本あり、やはりここは東海丘陵要素植物群だと実感します。ニイニイゼミが鳴き、翅が濃い藍色のチョウトンボがひらひら舞って本当に綺麗です。

最後にベンチに座って、保護の会の方から地道な活動の様子や、観察会のあとに大事なものがなくなることがままある事、ギフチョウの産卵場所が集中しているののでどのようにしたらよいか、などのお話をお聞きし、ちょっと真面目に保護の難しさを考え、観察会を終えました。



研修会報告（尾張） 生物多様性

尾張支部 内海勇夫

日時：平成 20 年 6 月 28 日（日）

場所：春日井市 築水池湖畔広場

講師：尾張支部 松尾初

テーマ：生物多様性について

研修のポイント

- (1) 生物多様性条約について
- (2) エコロジカル・フットプリントと生物多様性ホットスポットについて
- (3) 生物多様性のために何ができるか。
- (4) 生物多様性国家戦略について

研修内容：

生物多様性条約

- 目的
- (1) 生物多様性の保全
 - (2) その構成要素の持続可能な利用
 - (3) 遺伝資源の利用から得た利益の公正な配分

生物多様性とは

- (1) 生態系の多様性
- (2) 種の多様性
- (3) 遺伝的多様性

エコロジカル・フットポイント

国内の土地面積＋輸入土地面積－輸出土地面積で表わされる。

日本は 4.4Gha、世界平均 2.2Gha。

1.0Gha が国内の自給自足ができていていること。日本はよその国の分を使っている。
輸入で現在の森や自然を保っているということ。

生物多様性ホットスポット

生物多様性が豊かであるにもかかわらず絶滅危惧種が多く生息し、危機にひんしているため保全が急がれる地域のこと。日本もこの中に入っている。

日本の脅威となっているのは、都市開発と外来生物の問題。

生物多様性の保全のために ～生活の中で私たちにできること～

- ・自然の恵みに感謝しよう。
- ・身近な自然を大切にしよう。
- ・環境にやさしい生活をしよう。

「省エネ・省資源に心がけよう」「身近な地域でとれた作物を食べよう（地産地消）」「環境に配慮した商品を買おう（グリーン購入・フェアトレードなど）」

生物多様性国家戦略

- (1) 生物多様性を社会に浸透させる。
- (2) 地域における人と自然の関係を再構築させる。
- (3) 森・里・川・海のつながりを確保する。
- (4) 地球環境の視野を持って行動する。

行動計画

「生物多様性」の認知度を 30%から 50%以上とする。

ラムサール条約の登録湿地数の増加など、いくつかの数値目標を設定する。

こうした資料をもとに、身近な問題についての意見交換をしました。

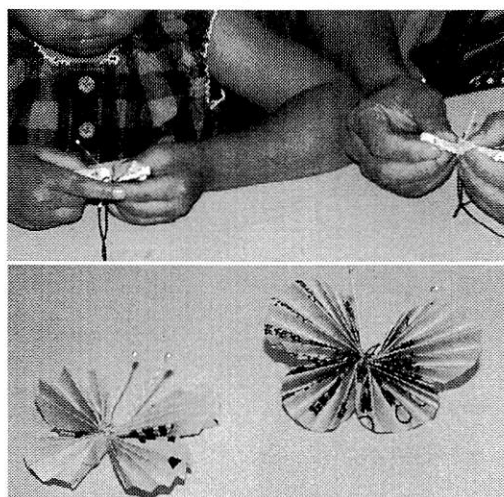
「夏休みだよ！NHKこどもエコスクール」 名古屋支部 アサギマダラ・プロジェクトが参画

名古屋支部 渡辺 敦

7月22日（水）～25日（土）の日程で、NHK 名古屋放送局 2階遊&放プラザにて「NHK こどもエコスクール」が「地球大好き環境キャンペーン」の一環として開催され、地域の活動団体が親子向けワークショップを行いました。私たち名古屋支部アサギマダラ・プロジェクトは最終日25日（土）に参画。会場は、アサギマダラに関するパネル、クラフト作品を展示し、BOXをピラミッド状に積み上げて設定完了。

ペーパークラフト

夏休み真っ只中の会場は、親子づれの参加者でにぎわいました。クラフトは単純な作業ながら、丹念に紙を折り畳むことが必要なものです。子どもたちの小さな手と懸命に取り組むその目のきらめきは、ほほえましいものでした。完成品はペンダントやストラップとして身につけて持ち帰ってもらいました。このクラフトは、プロジェクト会員によってアサギマダラの型紙をおこしたものです。どんな紙を使うかという段になり、不用になった浅葱色のチラシを活用することがひらめきました。チラシの地色の浅葱色と文字の黒色が、アサギマダラ独特のシックな色合いを連想させる作品となりました。



写真上：クラフトに挑戦中の親子づれ

写真下：アサギマダラのペーパークラフト

会場には、生きものの名前を書いたBOXをピラミッド状に積み上げていました。中学生から「これは食物連鎖のこと？」という質問があり、早速ゲーム開始。生きものたちの暮らしの話をし、いよいよクライマックスでBOXが崩れると参加者から驚きの声があがりました。それぞれの命のつながり、大切さが理解できるように工夫されたものです。会場では、親子づれのにぎやかな歓声が絶え間なく聞こえていました。

この事業の主催は、NHK 名古屋放送局、名古屋市、なごや環境大学実行委員会の協働によるものです。10月実施のアサギマダラ・マーキング調査の広報・告知の場とすることができました。

COP10と市民NGOの動き

知多支部 石原洋一(CBD市民ネット中部事務局、CBD市民ネット会員)

CBDとは **Convention on Biological Diversity** の略語です。COP 9のボンで顔を会わせたグループがCOP 10の名古屋開催決定にあわせて、ドイツNGOからバトンを受け継ぐために参集しました。ドイツNGOのレベルの高さに度肝を抜かれ右往左往しながらでしたが、とにかくバトンは受け継ぎました。



ドイツのNGOからバトンを引き継ぐ日本のNGO

当時はCOP 10を名古屋のNGOで迎えるために一先ず有志が集まり「生物多様性フォーラム(略称: JFB)」というNGOを立ち上げてボンに参加したのです。多くの方はJFB(現在も存在しています)から会期中数日ずつ参加をされましたが私は個人的に「中部の環境を考える会」の一員として本会議中2週間を通して参加しました。その時期ボンのホテルは宿泊料が高騰し、とても予約できる状態ではありませんでしたので、

ボンの近くのケルンに宿を決め、そこから主会場のボンのマルチムホテルに2週間通うことにしました。私は観光という事で4日間半日ずつ通訳を雇いました。ホテルからボンの会場には地下鉄で行くのですが、2日間もあればマスターできますので、JFBのメンバーが自炊しながら泊まっている安ホテルと通訳お勧めの観光地への行き方を教えてもらいました。結局マルチムホテル近辺以外は、宿泊ホテルの近くにテントを建てているサーカスとケルンの植物園を訪れ



ドイツ側が主催した歓迎行事のようす

ただけに終わりましたが、通訳から独り立ちした10日間は通勤にデインジャラスな毎日を送ることとなりました。その経験が「やればできる!」という変な自信を持って

しまう事になりました。しかしボンに宿を持たない身としては、毎日早朝に開かれるNGOの打ち合わせには参加できないという不利を背負いました。英語さえ、それも片言で良いから意味さえ通じればボンの安い自炊宿に泊まれたものという反省はありましたが、どうしようもありません。

会議で翻訳される言葉に第二次世界大戦の敗戦国の言葉はありません。ドイツは主権国なのでドイツ語はあったようです。COP10では日本語の通訳も入るのでしょうかドイツでは日本語は一切ありませんでした。日本語以外で辛うじて分かるかな？という英語のチャンネルに自動通訳をセットするのですが時々チラッと分かる程度でほとんど意味不明な世界に2週間住んでいました。

COP10に向けての日本のNGOの動き

COP10に向けたNGOの全国組織として生物多様性条約市民ネットワーク（共同代表：高山、吉田）「略称：CBD市民ネット」が今年の1月25日に名古屋で設立総会をして立ち上がっています。その地域版として生物多様性条約中部地域流域作業部会（略称：CBD市民ネット中部）が実質的な活動を始めていますが、現在（6月25日時点）CBD市民ネットに加入していません。生物多様性フォーラム（JFB）はCBD市民ネットの会員として名古屋に事務所を置いています。

CBD市民ネット中部のホームページ；<http://www9.plala.or.jp/cbd/>

JFBのホームページ；<http://www.jf-biodiversity.org/contents/>

残念ながら、かつ何故だか理解できませんが！、全国組織のCBD市民ネットのホームページが未開設なのです。

COP10は名古屋で開催されますから、全国組織のCBD市民ネットも事務所は名古屋に置いています。伊勢・三河湾流域ネットワークの事務局が仮の本部になっていますが、実質的には本部は東京にあります。全国組織の事務局が今のところ名古屋に居ないのです。Hさんが仮の事務局を担っていますが、全国的な展開ができていないのは本腰を入れてかかる事務局が見つからないためだと私は思っています。

全国組織のCBD市民ネットは団体でなければ正会員になれません。個人はあくまでもサポーターで投票権がありません。現在、団体と個人的サポーターを含めると約1000の会員がいます。企業も入っていますが行政は今の所、入っていないようです。CBD市民ネットは国以外全て会員資格があるというアナウンスはしているのですが、行政は臆病なのでしょう。ドイツではNGOと地方行政が一緒に行動していました。日本でもそんな状態になることを望んでいるのですが、見果てぬ夢でしょうか？！。

CBD市民ネットに加入したい方は次のアドレスに申し込んでください。ただし団体は2万円、個人は5千円の会費が必要です。会費は1回払えばCOP10が終了するまでOKです。CBD市民ネットはCOP10終了後、後継の組織を創って解散する予定です。

CBD市民ネットへの加入申込先；cbd@ml-1.plala.or.jp

私は最初JFBに加入しましたが、理由があって現在はCBD市民ネット中部に軸足を置いています。

（編集部注：愛知県自然観察指導員連絡協議会はCBD市民ネットに加入済み）

～東三河の野生哺乳類・その4～

センサーカメラで撮る①

奥三河・東三河支部 神戸 敦

野生哺乳類の生息調査方法は、視認法、フィールドサイン法やトラップ法などがあります。さらに数年前に安価で使いやすいセンサーカメラが発売されたことにより、センサーカメラ法が頻繁に使われるようになりました。そのカメラは「フィールドノート」(下写真)と呼ばれフィルムカメラがベースで、センサーが動物の熱を感知してすぐにシャッターが切れるので、速い動きにも対応します。ところが残念なことに、完売となり新たに手に入れることはできな



くなりました。現在、デジタルカメラをベースにしたセンサーカメラが販売されていますが、ラグタイムが長く動きの速い動物には対応できません。そこで、動物の動きを止めるため誘引餌をカメラの前に用意して撮影することになるなど、不都合な面が多いです。したがって、フィルム代はかかりますが旧来の「フィールドノート」の方が使い勝手がよいと言えます。

今までセンサーカメラで撮影した何種類かの動物を紹介します。

◆テン

豊橋市東部の弓張山系から本宮山系まで、それも住宅地近くの林でも撮影できました。テンは山深い山地にいるものと思っていたので、その撮影回数の多さにびっくりしま



した。また、季節により体色が変わりますが、撮影結果から、いつ頃どのように変わるかがわかりました。

ある時、フィールドである豊川市財賀寺の和尚さんから本堂のお供え物が食べられるが犯人を調べて欲しいと頼まれました。センサーカメラをセットしたところ、テン(上写真)であることがわかりました。

◆タヌキ

豊橋市赤岩山で、見慣れない動物が写りました。しばらくして、疥癬症で毛が抜けたタヌキ(下写真)であることに気づきました。全国の疥癬症動物のデータを集めている知床博物館に写真を送り確認したとこ



ろ、重篤な個体とのことでした。疥癬症のタヌキは別の場所でも撮影し、ロードキル調査でも数個体見付き、視認もしていますので、東三河地方には疥癬症個体が多いと思われます。(次号へ)

5月より始まった「あいちの自然観察会」を奥三河、知多、名古屋、尾張、西三河の順に巡ってきました。今年は、講習会、COP10関係で行事が多いのに、理事会の回数や通信の回数が減ったのでとても苦慮しています。

(1)「COP10自然観察会」について

生物多様性条約会議の支援実行委員会事務局より、「COP10自然観察会」を開催していただきたいとの依頼がありました。そこで、事務局として、協議会と各支部で計画されている観察会を、COP10観察会と位置づけ、支援実行委員会に申請することにしました。

申請にともない、私たちが開催している観察会の企画を県民に広報していただける利点がある一方で、実行委員会から送られてくる「COP10」のパンフレットを、観察会で配布していただくことになります。お手間を取らせますが、よろしくお願いします。

また、実施した観察会の活動報告を、来年10月に愛地球博記念公園で開催される交流会で発表し、記録集にまとめことになります。観察会の担当者は、いままでどおり各支部会報で活動報告していただければ結構です。とりまとめは、事務局でおこないます。

「COP10観察会」が、この協議会の存在を県民だけでなく全世界に発信し、普及する機会であり、30周年を迎える協議会のひとつの節目になるように考えています。

(2)自然観察指導員講習会に備える事前研修会 担当 西三河支部

日時 9月27日(日) 時間 10:00～15:00

(5月号p4の案内と日程が変更になりました。)

場所 桑谷山荘(岡崎市山網町扇子山284)とその周辺

集合 桑谷山荘(Tel 0564-48-2855) 弁当持参

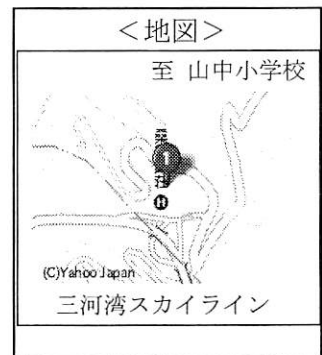
テーマ 自然観察の方法

内容 午前の部 室内講習 午後の部 講習会の下見

担当 西三河支部 三田孝 (Tel 0566-75-4059)

講習会の現地講師の方は、ぜひお集まりください。

桑谷山荘は岡崎の東南端に位置し、国道1号中山小学校東交差点を南方向へ曲がります。三河湾スカイラインからも行けます。



(3)理事会のお知らせ

9月23日(水・祭)午後開催する予定です。理事の方には、のちほどメールにて連絡させていただきますので、予定を開けておいてください。

(4)調査への参加・協力

愛知県が実施している「身近な生きもの見つけてみよう!」の調査票、環境省が実施している「いきものみつけ」の調査シートを同封しました。是非参加して、調査結果をお送りください。

(5)協議会の日(11月29日)

場所及び内容は、まだ決まっていません。

(6) 会員名簿の作成に当たっての確認

今年度は講習会を受講し新規会員も加わりますので、会員名簿を作成・配布する予定です。名簿には会員の氏名、住所、所属支部、連絡先電話番号を掲載してきましたが、個人情報保護の問題もありますので、住所の詳細や電話番号を公開したくない方は次のようにお申し出ください。

ア 申出先 名簿管理担当理事 吉川洋行

住所：〒455-0805 名古屋市港区当知 4-1105-5 吉川甲子雄方 Fax 052-381-4426

E-メールアドレス：aab65810@pop12.odn.ne.jp

イ 申出方法 郵便、ファックス又はE-メール

ウ 申出期限 平成21年9月末日

<<<<行 事 案 内 (詳細は5月号No.124p4でご確認ください。) >>>>

★あいちの自然観察会

<尾張支部> 日時：10月31日(土) 9:30~13:00 場所：春日井市少年自然の家

テーマ：森の恵みを楽しもう 問合せ：樋口祐子 (Tel.0568-85-0379)

★研修会

<名古屋支部> 日時：8月30日(日) 10:00~15:00 場所：瑞浪市竜吟の滝

テーマ：秋の溪流の植物 問合せ：萩原育男 (Tel.052-811-6477)

<知多支部> 日時：9月5日(土) 9:30~12:00 場所：美浜町布土川

テーマ：布土川の生き物 問合せ：斉藤 (Tel.0569-82-3922)

<東三河支部> 日時：9月5日(土) 9:00~16:00 場所：静岡県御前崎

テーマ：磯の生き物観察 問合せ：天野保幸 (Tel.0533-87-6012)

<西三河支部> 日時：9月27日(日) 10:00~15:00 場所：岡崎市桑谷山荘

(5月号の案内と日程が変わりました。ご注意ください。)

テーマ：自然観察の方法 問合せ：三田孝 (Tel.0566-75-4059)

<奥三河支部> 日時：11月15日(日) 10:00~15:00 場所：長野県阿南町弁当山

テーマ：秋の弁当山公園 問合せ：山田由乃 (Tel.0536-32-2702)

<<<<編集部からのお知らせ・お願い>>>>

■ 5月号 (No.124) の一部に誤りがありましたので、訂正をお願いします。

P10「理事会記録」の議事2の今年度の理事会日程で、2月12日(木曜・祝日)は誤りで、正しくは2月11日(木曜・祝日)です。お間違いないようお願いいたします。

■ 次号 (No.126) の発行は12月初旬です。原稿は11月15日を目途にお送りください。

編集スタッフ

岡田 雅子 近藤 記巳子

齋竹 善行 酒井 勇治

永田 孝 山口 健

発送スタッフ

岩沙 雅代 横井 邦子

協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

メ-ル：BZA03620.nifty.ne.jp

■ 愛知県自然観察指導員連絡協議会 (あいち自然観察会) 事務局 (当面)

〒486-0904 春日井市宮町3-6-2

松尾 初

Tel 0568-32-5069

■ Web Page : <http://naichi.net/>

■ 郵便振替口座：00820-9-6546 (名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会)